

大賞 宮本紗和さん（青森県 高校1年）

私の両親は、私がタバコについて否定的な話をすると口数を少なくする。自分自身らが喫煙者だからだ。私は物心ついた時からタバコが大嫌いだった。

ある日の帰り道、私は自転車で帰路についていた。坂を上り始めた瞬間、前に四十代ほどの、工事服を着たおじさんが歩いていた。「ああ、坂の上の橋は工事中だったな。」と思いながら進んでいたら、私が世界で一番嫌いな匂いがした。焦ってよく見てみたら、おじさんが片手に吸いかけのタバコを持って歩いていたのを見た。私は酷くめまいがした。なぜ、お金を払ってまで自分の寿命を縮める行動をするのだろう、そして、なぜ、私は巻き込まれなければいけないのだろう。

私は今年の春に高校生となり、社会に出て働くための最後の踏み台となる三年間を送ろうとしている。これまで、ここまで育ててくれた両親に恩返しを出来るように、自立していかなければいけない。そこで、私は自分の健康を自分の手で獲得することも、少しの恩返しになると思った。これをきっかけに私は両親の為にも、私の為にも、2030年までの世界的目標である17のSDGsと、達成基準である169のターゲットに目を向けてみることにした。

私がまず初めに目を付けたのは、目標3の「すべての人に健康と福祉を」である。この目標は、「誰もが健康で安心して暮らせること」をゴールとしているとわかった。さらに調べ進めていくと、169のターゲットの中に、「すべての国々において、タバコの規制に関する世界保健機関枠組条約の実施を適宜強化する」というものがあり、そこにも目を付けてみた。すべての国々において、と記されているところから、タバコが健康に悪影響だという認識は世界共通だとみてわかる。

私は両親にこう聞いた。「なんで体に悪いものを吸いたいと思うの？」返ってきた答えは、「ストレスを和らげるための逃げ場でもあるんだよ」と、言われた。子供としての私は少しばかり寂しい気持ちになった。嫌なことがあったら、私との会話で気持ちを楽にしてあげた

い。一緒に散歩だって行くし、温かいお風呂を用意してあげることもできる。タバコに親子のコミュニケーションをも奪われるのは勘弁だ。

次に、フォーカスを健康から環境に変えてみる。調べていくと、タバコが環境に悪影響を与えるのは、タバコの煙ではなく、タバコの製造と関係していることが分かった。タバコの畑は森を切り拓いて作られている。さらに、タバコの葉の乾燥に、ジャングルから切り出した木材を燃やしているらしい。中学校の時から、二酸化炭素は地球温暖化の原因となる温室効果ガスであることは知っていた。だが、この調べを通し、ヒトの、あまりに一方的な、人為的な自然破壊の現状を知り、持続可能な社会を、次の世代の若者に受け継ぐべき私たちの立場について考えなければいけないと強く感じた。しかし、忘れてはいけない、考え直すべき点もある。それは、タバコの栽培によって生計を立てている人もいるという点だ。実際に、私が住む青森県はタバコの栽培面積は日本で 5 番目である。農業を営む人達は、いつどう変化するかわからない環境を相手に仕事をしている。畑をかりて野菜を栽培していた祖父を間近で見っていたのもあり、昔から農家に対して憧憬を抱いていた。ヒトの充実した生活と、環境保全を両立していくことは私たちが責任を持って考えていかなければいけない問題だと思う。

2045 年、私は人それぞれが充実した楽しみで生きる世界になって欲しい。その楽しみを守っていく為に、環境問題や健康に対して、考えるだけでなく、行動に移せるかがカギになってくるだろう。未来の、自分たちの子供が、脱炭素社会の維持をし、健康に生きていけるかどうかは、今を生きる私、そしてあなたの行動次第なのである。